

平成30年12月27日
西部農林振興センター益田事務所農業普及部

| | |
|-----|--------------------------------------|
| 標 題 | 益田圏域農福連携情報交換会を開催！ ～できる方法をみんなで考える～ |
|-----|--------------------------------------|

(ダイジェスト)

12月18日、西部農林振興センター主催による標記情報交換会を開催し、福祉事業所等の関係者35名が出席。先行事例から農福連携の現状と課題については学び、今後の可能性について意見交換を行いました。
今後、全福祉事業所を個別に訪問し、今後のあり方について検討を行います。

津和野町にある就労継続支援B型事業所「わさびの里」は昨年4月から施設内で地域特産品である畑わさびの調整作業を請け負い、また9月からはNPO島根県障がい者就労事業振興センター（以下、事業振興センター）の農福連携障がい者チャレンジ事業を活用して施設外就労にも挑戦し、わさびハウス内での葉摘み、花摘み、除草作業を行っています。

当初は利用者は勿論のこと、支援者も戸惑いながらの作業だったようですが、互いに工夫と経験を重ねることで、作業の質・効率ともに向上し、今では受入れ農家にも高く評価されています。

今回、この事例を管内の農・福・教の関係者と共有し、今後の生産振興と工賃向上について考えるため、農業技術センター、事業振興センター、そして益田市障がい者自立支援協議会就労・社会参加部会の協力を得て、標記情報交換会を開催しました。

事業振興センターからの状況報告の後、「施設外就労による地域特産品の生産振興の可能性」をテーマにパネルディスカッションを行い、事業所からは「利用者のいつもと違う表情と能力等を発見。地域との関わりが持てた」、受入れ農家からは「100%に近い作業レベルで、今後も継続してほしい」との報告があり、参加者からは「工賃算定の基準がなく、それを評価する機関が必要では」といった問題も提起されました。最後にはコーディネーターが「障がい者ができる方法をみんなで考えよう」と締め括り、出席者の思いが一つになりました。



《パネルディスカッション》



《翌日の現地見学会》

《コーディネーター》農業技術センター 宮廻課長

《パネラー》

（作業受託者）わさびの里 糸賀サービス管理責任者

（作業委託者）フロンティア日原山菜加工場 村上工場長

（普及指導員）西部農林振興センター益田事務所 鶴永専門農業普及員

現在、普及部では管内の全12福祉事業所を個別に訪問し、具体的な意見や要望等を把握することにしており、今後はその状況を関係機関と共有し、管内でのあり方について検討していくことにしています。